令和４年度　部局経営目標（達成状況）

年度	令和４年度	作成日	令和5年3月31日
部局名	蒜山振興局	部局長名	行安　太志

（１）部局の役割・使命（ﾐｯｼｮﾝ）・経営方針

1 災害に強いまちづくり【No.11:住み続けられるまちづくりを】
市民の安心安全な暮らしを守るため関係機関・団体と連携を密にし、防災意識の向上と地域連携を図り、地域防災力の強化を図ります。
2 生涯を通じた健康づくりの推進【No.3:すべての人に健康と福祉を】
持続可能な地域社会を実現するための基本となる健康づくりに、各団体等との連携を図りながら取り組みます。
3 地域の強みを活かした地域振興【No.9:産業と技術革新の基盤をつくろう】
歴史、文化、風土、景観など地域の強みを活かした市民主体の振興事業や特産品を活用した商品開発などの地域内経済循環を推進し、豊かで自立した農山村の実現及び来訪者・関係人口の増加を目指します。
4 地域の特性を生かした産業振興【No.11:住み続けられるまちづくりを】
(1)豊かな地域資源（風習文化・伝統工芸・自然景観・食文化・農林畜産物等）が次世代に引き継がれるようにブラッシュアップし、観光事業に積極的に活用していくことで地域の魅力を全国に発信し、さらなる交流・定住人口の増加を図ります。
(2)コロナ禍により蒜山地域の主産業である観光事業に対し大きな影響が予測されますが、豊かな食文化や自然を再認識する絶好の機会ととらえ、地方の優位性に着目した取組みを推進し、全国に向け情報を発信していきます。
5 生み育てやすい環境づくり【No.11:住み続けられるまちづくりを】
安心して子育てができる環境を確保するためライフスタイルにあわせた支援をおこないます。
6 地域の文化力の向上【No.4:質の高い教育をみんなに】
自然・民俗の歴史を次世代に伝えるために蓄積するとともに、新たな文化及び芸術の創造に取り組み、心豊かな地域を目指します。
7 行政財産の有効活用【No.11:住み続けられるまちづくりを】
市民の共有財産である「行政財産・公共施設」について、一層の有効活用のため、地元の意向を把握しながら、管理運営形態や複合的な利用手法を検討します。

（２）事業成果目標	指標名及び目標値			
1-1　自主防災組織の強化 ・有事の際により安全な避難所の運営を目指し、自主防災組織の育成及び機能強化を目的とした勉強会を開催します。 ・自主防災組織未設立自治会に対し引き続き自主防設立を促す活動を行います。 ・管内小中学校の児童生徒へ防災意識の向上を目的とした防災出前講座を行います。	指標：組織率、設立数			
	目標値	実績値	評価	次年度への課題
	67%、61/91自治会	64.8%、59/91自治会 １自治会設立	管内３小学校へ防災出前講座を実施し、併せて自主防災組織の育成を目的とした研修会が実施できた。自主防防災組織設立は伸び悩んだ。	管内学校の防災出前講座が根付き、防災意識の向上が図れているため継続する。自主防育成強化のための効果的な勉強会を検討したい。これまでどおり組織増に取り組みながら、次年度から現在の自主防災組織の練度を上げることに注力したい。

2-1　健康づくり のための実践活動支援 ・蒜山地域食育・健康づくり実行委員会の構成団体と連携して、健康づくり活動を支援していきます。 ・高齢者の介護予防・健康増進の場となる「集いの場」の立ち上げにむけた働きかけを行い、地域共に検討していきます。 ・すでにある「集いの場」に対して、運営の継続を支援していきます。 ・健康づくりチャレンジや運動教室などを開催し、運動習慣の定着や増加につながるように支援し、地域の健康意識の向上に努めます。	指標:①働きかけする団体数、②継続支援する団体数			
	目標値	実績値	評価	次年度への課題
	① 1団体 ② 3 団体	① 2 団体 ② 3 団体	「集いの場」の立ち上げに向け、生活支援コーディネーターと連携しながら働きかけを行い、2団体が新たに運動型として活動を開始した。また、すでにある団体について活動時に訪問し、レクリエーションを提案するなどして継続的な支援を行った。	運動型の集いの場の立ち上げは運営する人にはハードルが高い。まずは「家から出て集まる場がある」という点を重視し、すでに活動している「集いの場」について継続できるよう支援を行う必要がある。健康づくりチャレンジなどは本庁でも取り組んでいるため、振興局では地域主体の働きかけを実施していく。
3-1　地域振興事業（中和いきいきプロジェクト） ・小さな里山資本主義を実践する「中和いきいきプロジェクト」の成果を持続するため、地域主体で農山村集落活性化のモデルとなった取組みを継続して支援することで、地域が描く将来像に向けて関係人口と定住人口の増加を目指します。(将来にわたって中和小学校の存続が可能な子供の数の維持) ・里山資源を活用したクロモジのアクセサリー、いぶりがっこ、豆腐、狩猟肉、郷土食などの資源循環を進めることで、多様ななりわいの創出を支援し、「小さな起業」から定住推進へつなげていきます。 ・庭先野菜の真庭市場への出荷者拡充と売上増による高齢者の生きがいづくりを支援していきます。 ・地域の子供たちの学びの場やボランティアサポーターが集う「えがお商店」を引き続き定住者の受入れ相談窓口や地域の情報発信を担う地域の重要な拠点として、地元利用の促進を支援します。	指標：①中和地域の交流人口、②えがお商店の利用者数			
	目標値	実績値	評価	次年度への課題
	①55,000人、②600人	①38,797人、②350人	中和地域をフィールドとし、第6期「真庭なりわい塾」基礎講座を開催するなど、新たな関係人口の増加に繋がっている。また、地域の拠点となる「えがお商店」には集落支援員を配置し、地域イベント開催のための会議やサマースクールなどに利用することで、昨年度よりも利用人数が増加している。	中和いきいきプロジェクトについては、地元住民と移住者の協働により農山村集落活性化のモデルとなっており、引き続き住民主体の地域づくりを行っていく。また、中和での地域づくりを参考とし、今後は蒜山地域全体に普及させる必要がある。

4-1　山焼きの承継と経済・文化的活用 ・山焼きなどの草原保全や希少種保護に取り組む蒜山自然再生協議会、市民ボランティア、NPO等の活動を自然再生活動と位置づけ、GREENableブランドとも連携して「利用」と「保全」の観点で両立する持続可能な仕組みを構築します。 ・（一社）日本茅葺き文化協会などと連携してススキの茅材としての経済的活用を図り、持続的な草原の保全及び山焼きの継承を図ります。 ・茅葺き屋根等の創設活動で茅の地域内循環と関係人口づくりを推進し、持続可能な草原の保全管理に向けた取組みを行います。	指標:①学びの会等参加者、②茅材の生産③茅による景観創出			
	目標値	実績値	評価	次年度への課題
	①150人、②2,000束、③１か所	①311人、②500束、③1か所	山焼きによって自生する良質なススキを利用し、蒜山高原自然広場内にモニュメントを設置することで茅のある風景を創出し、地域価値の向上に繋がっている。また、「ふるさと文化財の森」や「未来に残したい草原の里100選」にも選ばれ、今後の更なる発展が期待される。	これまでの取組みの成果を持続させ、「茅」に関わる人材や技術、生業を定着させるとともに、都市住民との交流「茅でつながる関係人口づくり」を進めていくことが重要である。また、蒜山自然再生協議会の体制を強化し、多くの賛同者を集めることで自然再生の実現を目指す必要がある。
4-2　蒜山の食の魅力向上 ・蒜山地域の豊富な食材やメニューの情報を集めて、その魅力を地域の飲食業や観光事業関係者等に再認識してもらい、地域資源として活用し、GREENableブランドとの連携でブラシュアップすることで「蒜山の食」の魅力の向上を目指します。 ・蒜山の食：乳製品、高原野菜、山菜やきのこ、ジビエ、ご当地グルメ等	指標:①食の魅力向上検討会②食のブラッシュアップ品数			
	目標値	実績値	評価	次年度への課題
	①3回、②３品	①2回、②3品	地域資源の一つであるジビエ肉について、地元の小学生を対象とした「地域の宝を知る授業」を実施し、学校給食で提供するなど地産地消を推進した。また、サステナビリティを実践するレストランもオープンし、地元住民の憩いの場となるとともに、新たな関係人口の増加にも繋がった。	蒜山地域には、ジビエ肉やジャージー牛乳、ひるぜん大根、ひるぜん焼そばなど多種多様な魅力ある食品があり、飲食店などを中心にそれぞれが独自のアレンジを施し提供されている。今後も各店舗ごとに特色を生かしたメニュー開発を行うことで、交流人口の増加に繋げる必要がある。今後は、蒜山全域の周遊拡大と滞在型観光の推進と同じ視点で事業を展開していく。

4-3　蒜山全域の周遊拡大と滞在型観光の推進	指標：①報道掲載回数 ②自転車イベント回数 ③レンタサイクル利用者数			
	目標値	実績値	評価	次年度への課題
・観光資源である自然景観・文化活動、伝統行事を報道機関等を通じて積極的に情報発信し、地域全体への誘客と交流人口の増加を目指します。 ・今年度整備を開始する「自然広場(仮称)」は、同敷地内の蒜山サイクリングターミナル、道の駅蒜山高原サイクリングターミナル、GREENable HIRUZENのサイクリングセンターと蒜山サイクリングロードで繋がっており、このサイクリングロード周辺には多くの観光施設が存在することから、その相乗効果により、観光の点の取組を面の取組に広げ、周遊効果を高めることで蒜山地域の滞在時間を延ばし、経済効果の向上につなげていきます。 ・GREENableHIRUZENのサイクリングセンターの稼働にあわせ、「蒜山高原サイクリングロード」をフィールドに観光事業者等と連携し、利用者の満足度向上につながるイベントを開催することで蒜山高原におけるサイクリング観光を推進します。 ・蒜山高原ライディングパークが改修されることに伴い、蒜山地域と馬との歴史や馬とのふれあいの場を新たな観光資源として活用していきます。 ・「滞在型観光」をキーワードに、食や高原的景観、体験型観光を充実させるため、新たな民間ホテルに道の駅や地域の商店を利用してもらえるような連携の構築を推進します。また、再建するそばの館や改修した蒜山ヒルズで地元産の食材をより活用することにより、持続可能な力強い循環型経済の仕組みを推進します。 ・津黒高原荘と周辺施設の連携した観光情報等の発信により、地域全体に観光の回遊を促進することで中和地区への誘客及び収益の増加を目指します。 ◆津黒いきものふれあいの里との連携 ◆（一社）アシタカ、中和薪生産組合との森林管理業務の提携 ◆自然共存型アウトドアパーク「ボウケンノモリひるぜん」との連携 ◆蒜山ツアーデスク等エコツアー団体との提携 などを調整し、体験型観光や教育旅行等に対応する体制づくりを進めます。 ・津黒高原観光事業に係る「経営戦略」については、国の「経営・財務マネジメント強化事業」を活用しつつ令和４年度での策定を目指します。	①20回、②3回、③10,000人	①43回、②15回、③9,941人	GREENableHIRUZENなど6施設でマウンテンバイクや電動自転車、ロードバイクなど複数種類のレンタサイクル事業を行うとともに、滞在型ツアープログラム開発のため、自転車の乗り捨て実証事業を実施した。 GREENableHIRUZENという新たなランドマーク（観光拠点施設）を起点に、効果的な情報発信を行うことで、新たな客層の獲得に繋がり、旅行消費額の増加による地域経済の活性化が図られた。 さらに、蒜山IC付近に新しいホテルがオープンし、滞在型観光の増加に繋がった。	蒜山高原の東の拠点として期待される、「蒜山高原自然広場」がオープン予定であり、これまでよりも更に滞在時間が増加することが期待される。また、引き続き観光事業者と連携し、滞在型観光メニューの構築を進めるとともに、一体的な情報発信を実施し、外国人観光客も含めたコロナ後の観光需要の取り込みを目指す必要がある。

<table>
<tr><td rowspan="3">4-4　伝統工芸・郷土芸能の保存と伝承
・地域の誇りとして連綿と引き継がれている工芸品や大宮踊・民謡などの郷土芸能の資料を保存公開している蒜山郷土博物館と連携して、体験型観光メニューとして活用していきます。
・郷原漆器やガマ細工の原材料確保に向けて、苗木植栽により森の整備を進めるとともに、地域の伝統工芸の普及振興と愛用者層の拡充を図っていきます。
・GREENableブランドと連携することで、郷原漆器やガマ細工の知名度の更なる向上を図ります。
・知名度向上と同時に、郷原漆器生産振興会及び蒜山ガマ細工生産振興会と連携を図り、後継者確保に努めていきます。</td><td colspan="4">指標:①振興会会員数、②苗木植栽本数、③体験会参加者数</td></tr>
<tr><td>目標値</td><td>実績値</td><td>評価</td><td>次年度への課題</td></tr>
<tr><td>①１人増、②100本、③40名</td><td>①増加なし、②100本、③なし</td><td>国指定重要無形民俗文化財である、「大宮踊」が風流踊りの一つとしてユネスコ無形文化遺産に登録され、今後の更なる発展が期待される。
また、郷原漆器やがま細工といった伝統工芸品については後継者の確保を進めるとともに、原料となるヒメガマ確保のために休耕田への植栽を行った。</td><td>郷原漆器生産振興会が解散する予定のため、新たな担い手となる組織及び後継者の育成が必要となる。
また、ガマ細工の原料となるヒメガマは、近年、生育状況が好ましくなく、原因究明と対応策の確立が必要である。
次年度は地域資源をマップ化する取組を実施し、伝統工芸の保存と伝承の体制整備を図りたい。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">5-1 「生むこと・育てること」を支援
・母子手帳交付時に安心して出産できるよう相談や情報提供を行い、「生むこと・育てること」の悩みや不安を軽減します。
・蒜山地域では年間約10件の出生届があり、出産後は、早期に訪問し、子育て環境の確認や様々な不安や悩みを聞き、それに応じた情報提供を行い、適切なサービスに繋げ、地域で健やかな子育てができるようサポートします。
・育児不安の軽減や子育ての孤立を予防するため、つどいの広場や親子クラブなどの情報提供を行い、子育て中の親子が地域とのつながりを持てるよう支援します。
・事故や虐待から子どもを守るため、こども園、小中学校、民生児童委員等と連携をとり、地域で一体となった支援を進めていきます。
・子育て世代の移住者増加につながるよう、地域の関係機関と協力して引き続き細やかな支援体制を構築し、子育てしやすい蒜山地域を目指す。</td><td colspan="4">指標：つどいの広場（中和つどいの広場）の延べ参加者数</td></tr>
<tr><td>目標値</td><td>実績値</td><td>評価</td><td>次年度への課題</td></tr>
<tr><td>1,300人</td><td>1,562人</td><td>中和つどいの広場では、前年に引き続き、子育てする親の運動不足やストレス解消のため、エクササイズやヨガ等を行う「マザーズヘルスデイ」を開催した。
また、地域とのつながりを持つ活動として、愛育委員会、栄養委員会と共同で「あじさい広場」を活用した工作、栄養講習会を行った。</td><td>引き続き育児不安の軽減や子育ての孤立を予防すること、子育て中の親子が地域とつながりを持つと行ったつどいの広場の目的を充実させる。
また、参加しやすい体制を構築し、リピーターや参加者が増えるよう改善して、市民の子育て支援を充実させていく。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td rowspan="3">6-1　図書館の利活用促進
蒜山図書館の特色として、本や資料で蒜山地域が紹介できる場所を常設して利用者増を図っています。
・蒜山図書館を特色づける「自然・民俗」分野について、引き続き郷土博物館との連携企画を実施し、ボランティアスタッフを動員した博物館講座及びキッズスペースを利用した読み聞かせなどを行います。
・知の拠点である図書館の特色を生かし、利用者からのニーズに応えた生涯学習講座を開催します。また、郷土博物館展示企画展の開催にもあわせて、特集展示を行います。
・市民だけでなく観光客にも蒜山の郷土資料が閲覧しやすい常設コーナーを設けます。
・パンフレット活用により、蒜山図書館などの文化施設を広く周知します。
・自動車文庫の運行について3か月ごとの見直しに合わせ利用実績、要望などを参考にきめ細やかな見直しを行います。
・大宮踊のユネスコ無形文化遺産登録に併せた、特集展示や生涯学習講座を実施します。</td><td colspan="4">指標:①図書館利用人数②図書貸し出し冊数③市民サポーター(ボランティアスタッフ)</td></tr>
<tr><td>目標値</td><td>実績値</td><td>評価</td><td>次年度への課題</td></tr>
<tr><td>①12,000人②34,000冊③2名</td><td>①8,525人②26,667冊③7名</td><td>月1回以上図書館講座を開催し、利用者・貸出冊数の増加に取り組んだが、新型コロナウイルス感染拡大のため最終的には伸び悩み、目標を達成するに至らなかった。
読み聞かせボランティアスタッフの募集を行ったところ、新規に7名が新規参加し月3回の読み聞かせ会を行えるようになった。</td><td>引き続きパンプレット活用などに注力し、利用人数・貸出冊数の増加を図る。
ボランティア活動が継続出来るよう、活動支援を行う。
自動車文庫運動場所の再検討を引き続き行う。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">6-2　博物館を活用した地域主体の歴史遺産の掘り起こし
蒜山郷土博物館と地元住民との協働により蒜山地域特有の歴史遺産を掘り起こし、観光活用を図るとともに「郷育」教材の一つとしての価値を見い出します。
・蒜山の戦争遺跡に関する歴史について、令和3年度に実施した調査を元に真庭観光局と連携して、戦争遺跡に関するシンポジウム及び見学会を実施します。これにより、博物館のコンテンツ強化と利用者の増加を目指します。
・地元住民と協働して歴史の掘り起こしと活用の検討を行うことで、地元の方が自らの手で地域の歴史について知り、考える機会を生み出し、郷土への興味や愛着を育む「郷育」を推進していきます。
・史跡を巡る歴史を明確にすることで、蒜山地域の歴史的変遷を解明し、「郷育」の拠点及び観光資源としての博物館の活用を図っていきます。</td><td colspan="4">指標：地域聞き取り調査</td></tr>
<tr><td>目標値</td><td>実績値</td><td>評価</td><td>次年度への課題</td></tr>
<tr><td>対象人数20人及び件数30件</td><td>①６人②６件</td><td>企画展示の開催や、図録発行により、博物館活動に興味を持つ方が増え、来館者数が増加した（Ｒ３：2,556　Ｒ４：4,078）。
調査活動は、調査対象の高齢化等によりスケジュール調整が難しかったため、対象を絞り込んで実施した。
館長は年数回地域内の学校に赴き講座を行っており、郷育に協力していた。</td><td>引き続き調査活動を行い、その成果を企画展示や図録発刊に活用し、博物館活動の充実と来館者数の増加に努める。</td></tr>
</table>

7-1　管内公共施設の有効活用及び効率的運営の推進	指標：方針確定数			
	目標値	実績値	評価	次年度への課題
・蒜山地域にある同一目的で設置されている施設について、統廃合について方針を定めます。 （保健センター、老人福祉センター、コミュニティセンター等） ・旧川上庁舎関係3施設について施設使用団体と協議し、解体可能時期を確定し、R5年・6年度での解体実施に向け進めていきます。 ・地域内コミュニティーセンター5施設の集約化による統廃合について関係各所と調整を進め、方針決定を目指します。 ・利活用の検討を進めてきた蒜山高原スポーツ公園内のミニゴルフ場跡地「自然広場(仮称)」について、名称を公募し、令和3年度に策定した利活用計画等に基づく施設整備、施設の有効活用及び運営を行います。	統廃合5施設 解体3施設、着工１	R5解体10施設、売却1施設 R4解体済み1施設	・保健センター等は課題調整会議にて、各施設区分ごとの個別計画策定に結び付けることが出来た。 ・旧川上庁舎３施設についてはR5年度2施設解体、1施設はR5年度中に利活用を決定する。 ・このほか管内公共施設についてR5年中に8施設解体、１施設売却予定とすることが出来た。 ・旧蒜山高校教員住宅解体撤去完了済	旧川上庁舎３施設について、R5年度2施設の早期解体及び残る1施設は利活用の早期決定を行う必要がある。 その他R5年度解体予定の各施設についても関係課と連携し早期解体を行う必要がある。 今後は、市全体の動きとして施設個別計画を策定し、行政財産の有効活用を行うこととする。